

平成29年度
市民意識調査（アンケート）
結果報告書

平成30年3月
鹿屋市

目 次

1	調査の概要	ページ
(1)	目的	1
(2)	抽出方法	1
(3)	対象者数	1
(4)	調査期間	1
(5)	回答者数	1
(6)	アンケート回答者数の信頼性	1
2	回答者の状況	
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	職業	3
(4)	住まい	3
(5)	居住年数	4
3	鹿屋市の住みやすさ、愛着度について	
(1)	住みやすさについて	4～5
(2)	愛着度について	6～8
4	鹿屋市が実施している取組の満足度・重要度について	
(1)	各分野別の施策（取組）一覧	9
(2)	施策に対する満足度・重要度の相対的な比較	9～10
(3)	前回調査（H23年度調査）との比較	11～15
5	結婚、少子化対策について	16～18
6	鹿屋市のイメージやまちづくりを行う上で大切にしたいキーワード	19
7	将来の鹿屋市について	20

1 調査の概要

(1) 目的

後期基本計画の検証において、行政の評価と市民の意識（重要度、満足度等）を対比することにより、成果や課題を明らかにする。

また、今後の鹿屋市のまちづくりを考える上で、できるだけ多くの市民の意見を反映させる。

(2) 抽出方法

16歳以上の市民の中から無作為に抽出

(3) 対象者数

3,000人

(4) 調査期間

平成30年1月25日～2月14日（21日間）

(5) 回答者数

886人（回答率 29.5%）

(6) アンケート回答者数の信頼性

本来、アンケート調査を行う場合、その回答誤差をなくすためには、全母集団（全被験者）を対象とすることが理想であるが、母集団（被験者）の数が膨大な場合、効率的ではないため、適当なサンプル数（人数）を選んで行う。

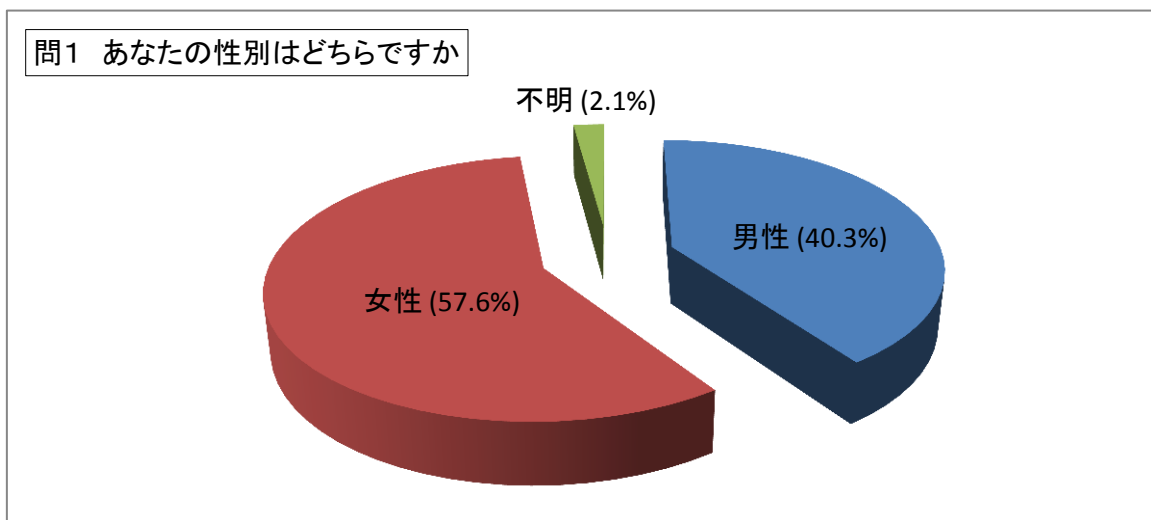
その場合、アンケート回答者数と回答誤差の関係は、当然、回答者数が少ないと誤差が大きく、回答者数が多いと誤差は小さくなるが、その関係は一定でなく、ある一定の数を超えると、回答者数を大幅に増やしても回答誤差はほとんど変わらなくなる。

統計学的には、この「一定の数」は標本誤差が3～5%以内であればよいとされている。標本誤差3～5%となるためには、約320人から900人の回答者数があればよく、今回のアンケートの回答者数は886人であるので、本調査は信頼性が確保されていると言える。

$n = 1.96^2 \times \frac{p(1-p)}{d^2}$	$1.96^2 \times \frac{0.295(1-0.295)}{0.05^2} = \underline{319.6}$
n：回答者数	
p：回答率	$1.96^2 \times \frac{0.295(1-0.295)}{0.03^2} = \underline{887.7}$
d：標本誤差	

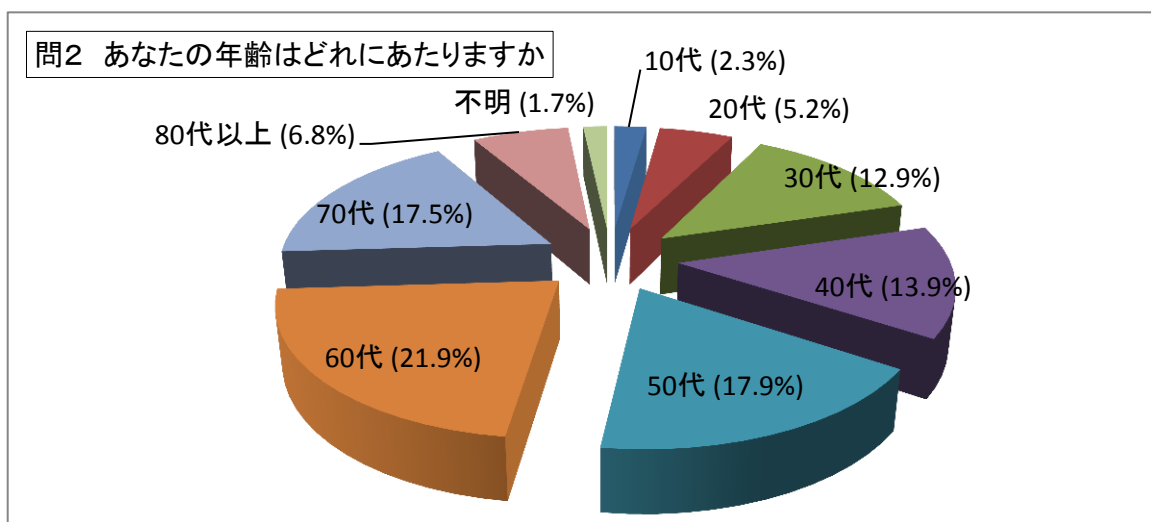
2 回答者の状況

(1) 性別



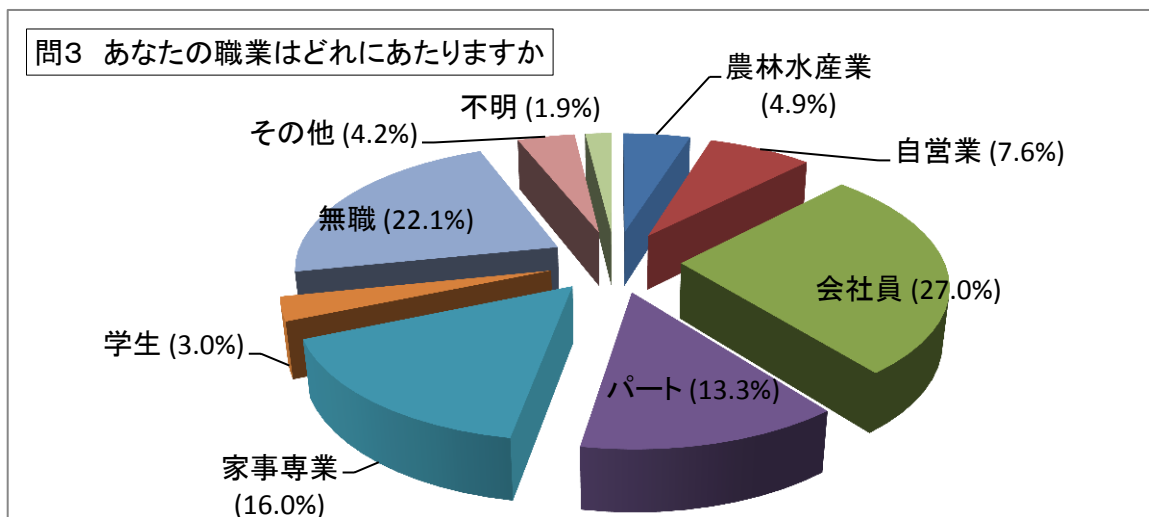
	回答者数	割合
男性	357人	40.3%
女性	510人	57.6%

(2) 年齢



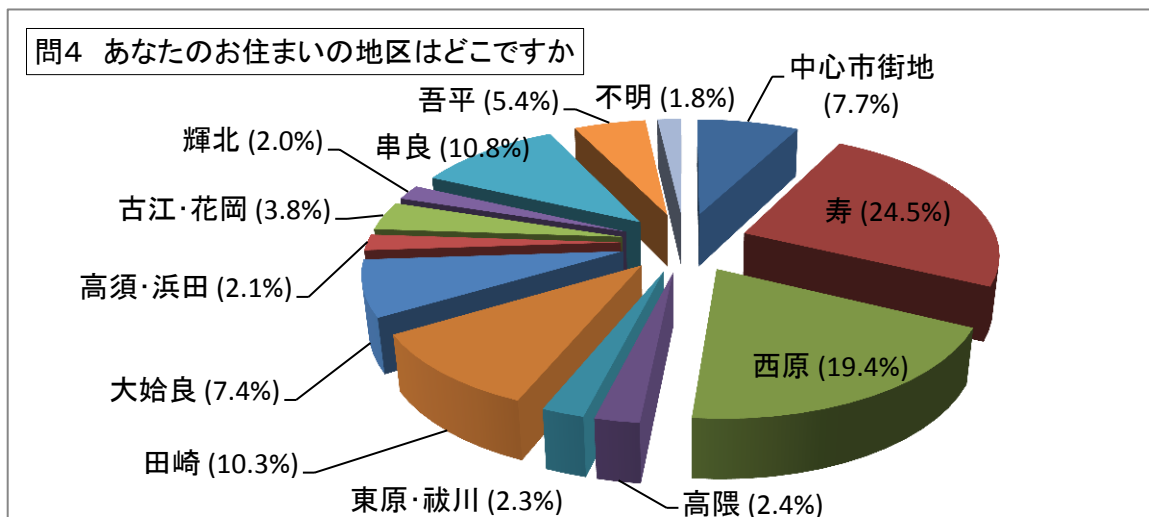
	回答者数	割合
10歳代	20人	2.3%
20歳代	46人	5.2%
30歳代	114人	12.9%
40歳代	123人	13.9%
50歳代	159人	17.9%
60歳代	194人	21.9%
70歳代	155人	17.5%
80歳代以上	60人	6.8%

(3) 職業



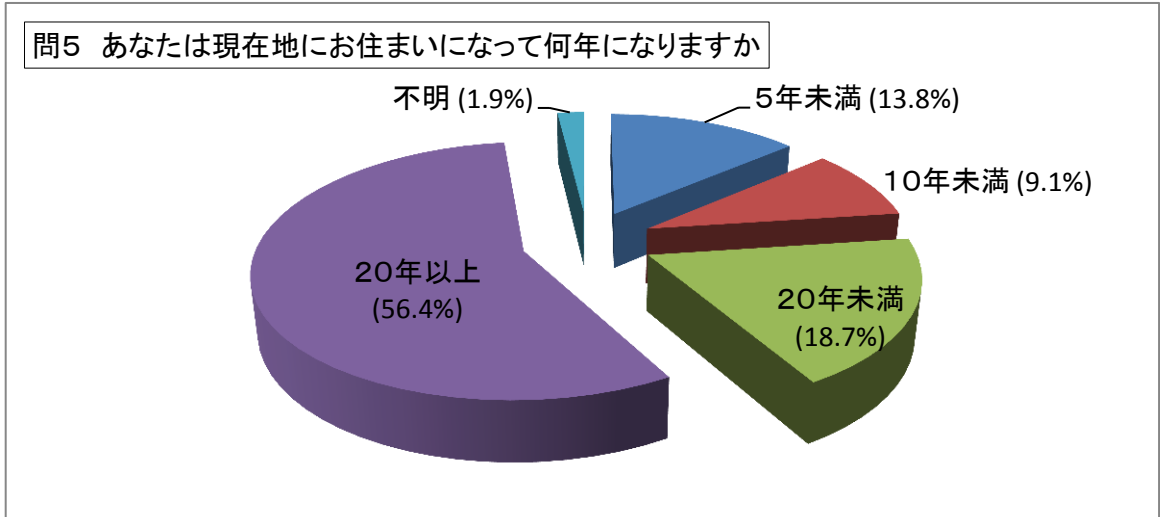
	回答者数	割合		回答者数	割合
農林水産業	43人	4.9%	家事専業	142人	16.0%
自営業	67人	7.6%	学生	27人	3.0%
会社員	239人	27.0%	無職	196人	22.1%
パート・アルバイト	118人	13.3%	その他	37人	4.2%

(4) 住まい



	回答者数	割合		回答者数	割合
中心市街地	68人	7.7%	大始良	66人	7.4%
寿	217人	24.5%	高須・浜田	19人	2.1%
西原	172人	19.4%	古江・花岡	34人	3.8%
高隈	21人	2.4%	輝北	18人	2.0%
東原・祓川	20人	2.3%	串良	96人	10.8%
田崎	91人	10.3%	吾平	48人	5.4%

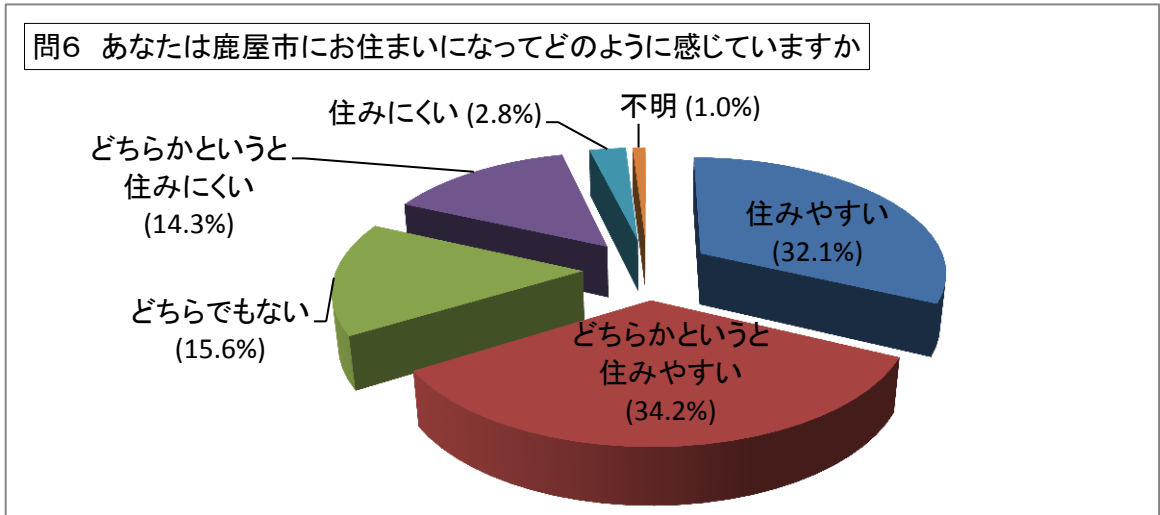
(5) 居住年数



	回答者数	割合
5年未満	122人	13.8%
10年未満	81人	9.1%
20年未満	166人	18.7%
20年以上	500人	56.4%

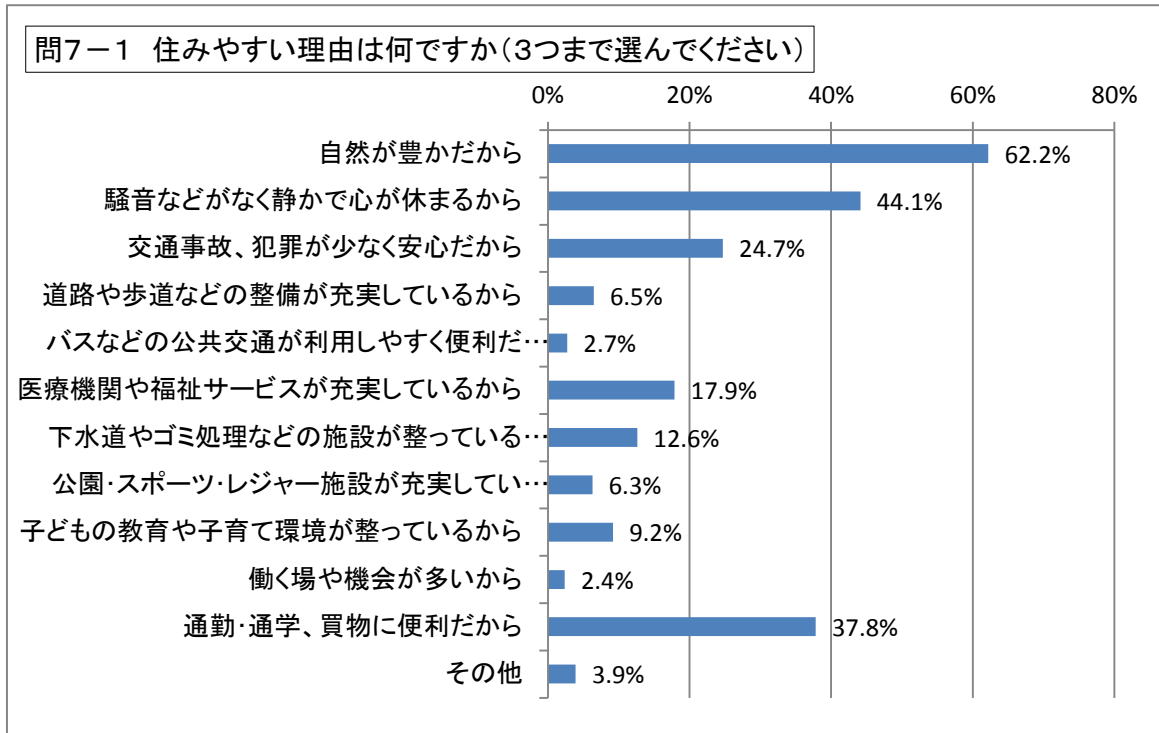
3 鹿屋市の住みやすさ、愛着度について

(1) 住みやすさについて

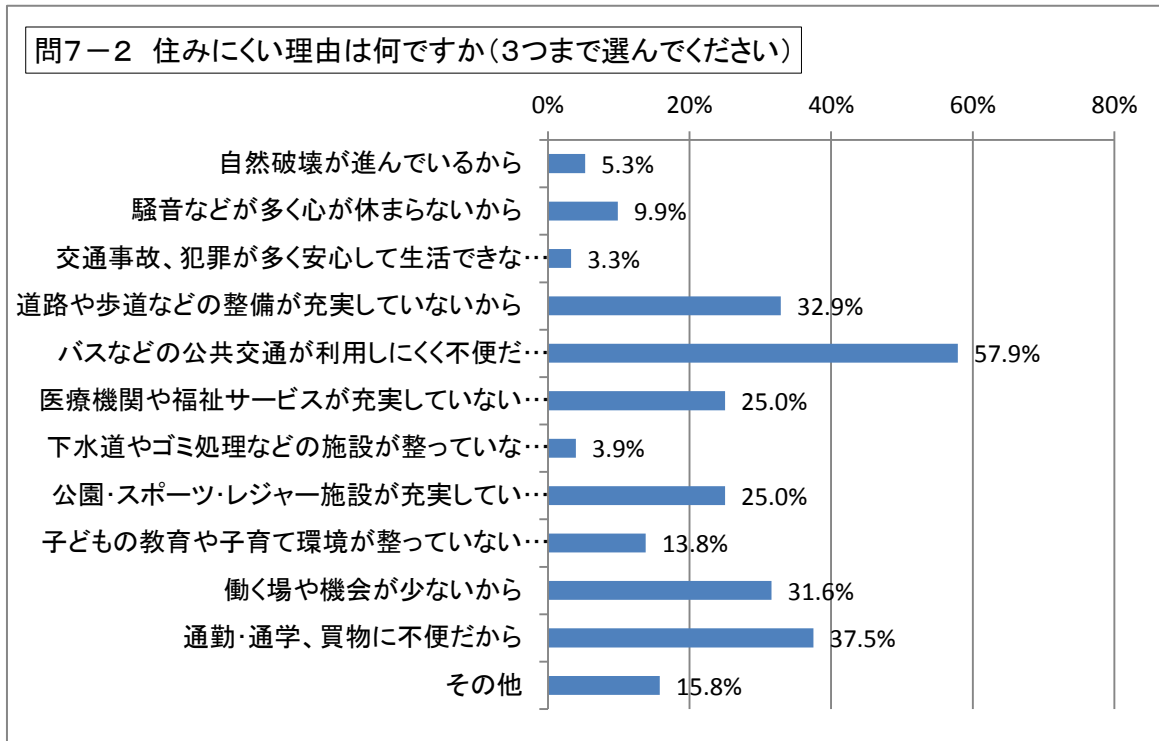


	回答者数	割合
住みやすい	284人	32.1%
どちらかというに住みやすい	303人	34.2%
どちらでもない	138人	15.6%
どちらかというに住みにくい	127人	14.3%
住みにくい	25人	2.8%

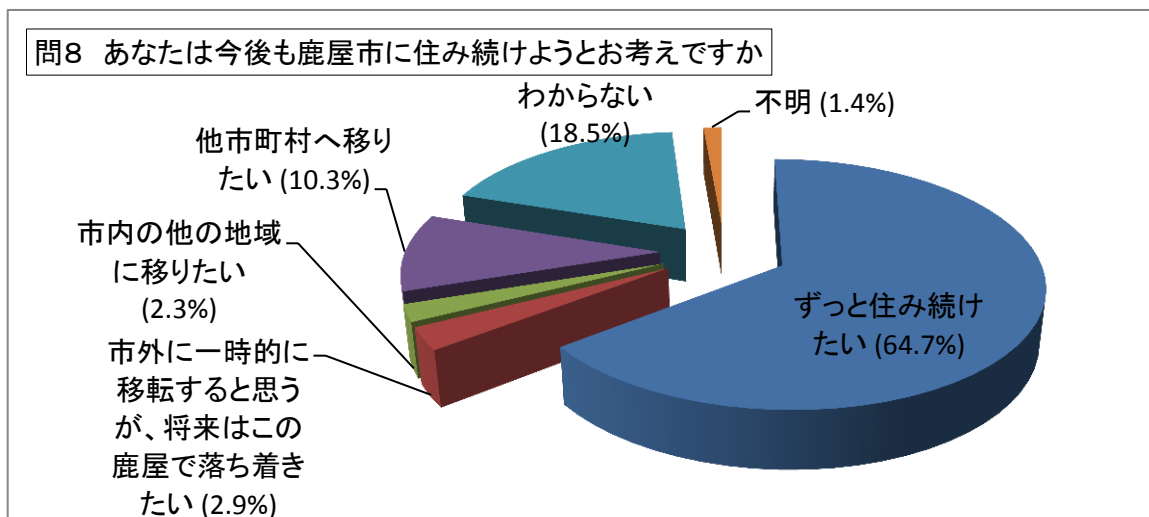
ア 住みやすい理由



イ 住みにくい理由

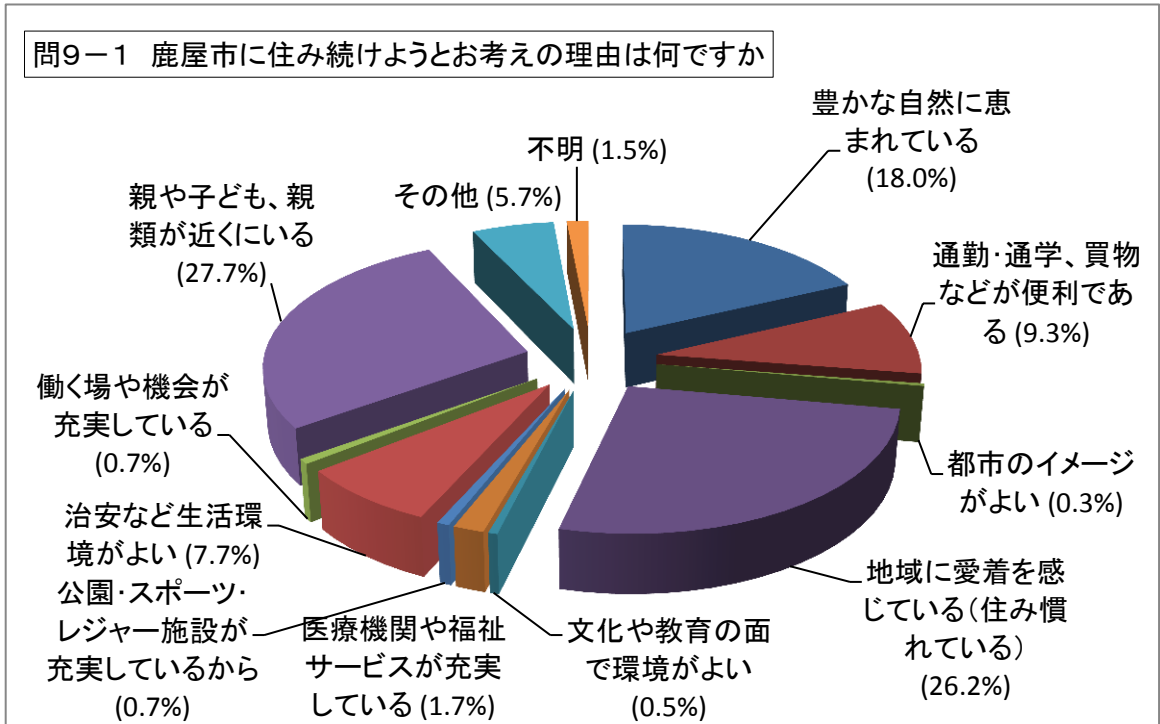


(2) 愛着度について



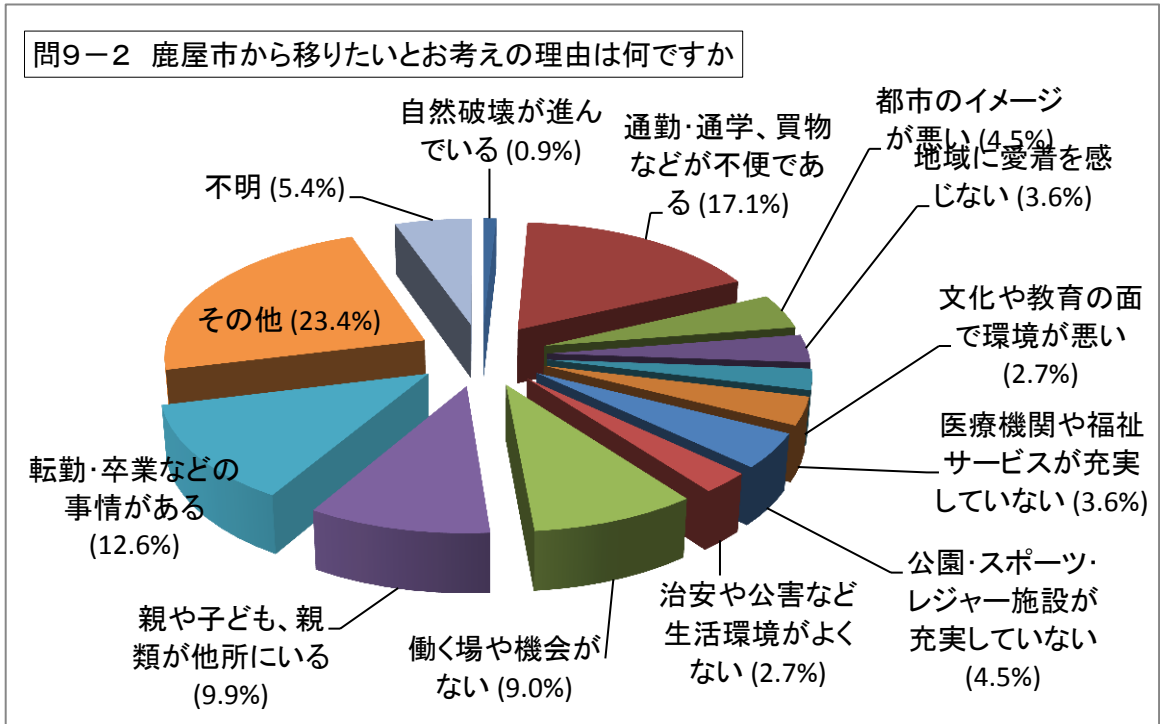
	回答者数	割合
ずっと住み続けたい	573人	64.7%
市外に一時的に移転すると思うが、将来はこの鹿屋で落ち着きたい	26人	2.9%
市内の他の地域に移りたい	20人	2.3%
他市町村へ移りたい	91人	10.3%
わからない	164人	18.5%

ア 鹿屋市に住み続けたい理由



	回答者数	割合
豊かな自然に恵まれている	108人	18.0%
通勤・通学、買物などが便利である	56人	9.3%
都市のイメージがよい	2人	0.3%
地域に愛着を感じている(住み慣れている)	157人	26.2%
文化や教育の面で環境がよい	3人	0.5%
医療機関や福祉サービスが充実している	10人	1.7%
公園・スポーツ・レジャー施設が充実しているから	4人	0.7%
治安など生活環境がよい	46人	7.7%
働く場や機会が充実している	4人	0.7%
親や子ども、親類が近くにいる	166人	27.7%
その他	34人	5.7%

イ 鹿屋市から移りたい理由



	回答者数	割合
自然破壊が進んでいる	1人	0.9%
通勤・通学、買物などが不便である	19人	17.1%
都市のイメージが悪い	5人	4.5%
地域に愛着を感じない	4人	3.6%
文化や教育の面で環境が悪い	3人	2.7%
医療機関や福祉サービスが充実していない	4人	3.6%
公園・スポーツ・レジャー施設が充実していない	5人	4.5%
治安や公害など生活環境がよくない	3人	2.7%
働く場や機会がない	10人	9.0%
親や子ども、親類が他所にいる	11人	9.9%
転勤・卒業などの事情がある	14人	12.6%
その他	26人	23.4%

4 鹿屋市が実施している施策の満足度・重要度について

(1) 各分野別の施策一覧

分野	実施している施策	分野	実施している施策
A 市民生活	①公害防止等の環境保全対策や良好な自然環境の保全	D 都市基盤	①国道・県道などの幹線道路の整備
	②リサイクル推進・ごみの減量化対策の充実		②生活道路の整備
	③ごみ収集、処理体制の充実		③公共交通機関の利便性の向上の促進
	④交通安全への取組の充実		④公営住宅の整備
	⑤防犯体制への取組の充実		⑤上水道・簡易水道の整備
	⑥国際交流の取組の推進		⑥下水道などの生活排水処理施設の整備
	⑦男女共同参画社会づくりの推進		⑦公園や広場などの整備
	⑧行政相談、窓口サービスの充実		⑧治山、治水、砂防などの災害対策の強化
	⑨高度情報通信ネットワークの充実		
B 健康福祉	①保健サービス（検診、予防接種、健康相談等）の実施や健康づくりへの支援	E 教育文化	①幼児教育の充実
	②病院・診療所等の医療施設や救急医療の充実		②学校教育施設・教育内容の充実
	③子育て支援の充実		③健全で心豊かな児童育成など社会教育の充実
	④高齢者福祉サービスの充実		④生涯学習環境の充実や施設の整備
	⑤障害者福祉の充実		⑤スポーツの振興や施設の整備
	⑥地域福祉活動の充実に向けた人材育成と体制の整備		⑥地域の歴史資源の保護や活用
	⑦文化施設、芸術・文化活動の充実		
C 産業振興	①農林水産業の振興（生産基盤の整備、後継者の育成など）	F 市民参画・行政運営	①市政に関する情報提供や情報公開
	②農林水産物や観光資源などの地域資源・特性を生かした産業等の振興		②公民館や集会所などのコミュニティ施設の整備
	③地場産品のブランド化の推進		③地域コミュニティ活動の充実・強化
	④中小企業・地場産業の育成、支援		④共生・協働のまちづくりの推進
	⑤起業の支援や新産業の創出		⑤NPOやボランティア活動支援の推進
	⑥企業誘致の推進		⑥民間企業やNPO団体等への業務委託の推進
	⑦雇用機会の創出などに関する取組の推進		⑦行財政改革の推進
	⑧広域行政、広域連携の推進		

(2) 施策に対する満足度・重要度の相対的な比較

「施策に対する満足度」は、「ごみ収集、処理体制の充実（A③）」、「保健サービス（検診、予防接種、健康相談等）の実施や健康づくりへの支援（B①）」、「リサイクル推進・ごみの減量化対策の充実（A②）」などの施策に対する満足度が高く、「公共交通機関の利便性の向上の促進（D③）」、「雇用機会の創出などに関する取組の推進（C⑦）」、「企業誘致の推進（C⑥）」などが低い。

また、「施策の重要度」では、「病院・診療所等の医療施設や救急医療の充実（B②）」、「保健サービス（検診、予防接種、健康相談等）の実施や健康づくりへの支援（B①）」、「防犯体制への取組の充実（A⑤）」などの施策の重要度が高く、「国際交流の取組の推進（A⑥）」、「民間企業やNPO団体等への業務委託の推進（F⑥）」、「公営住宅の整備（D④）」などが低い。

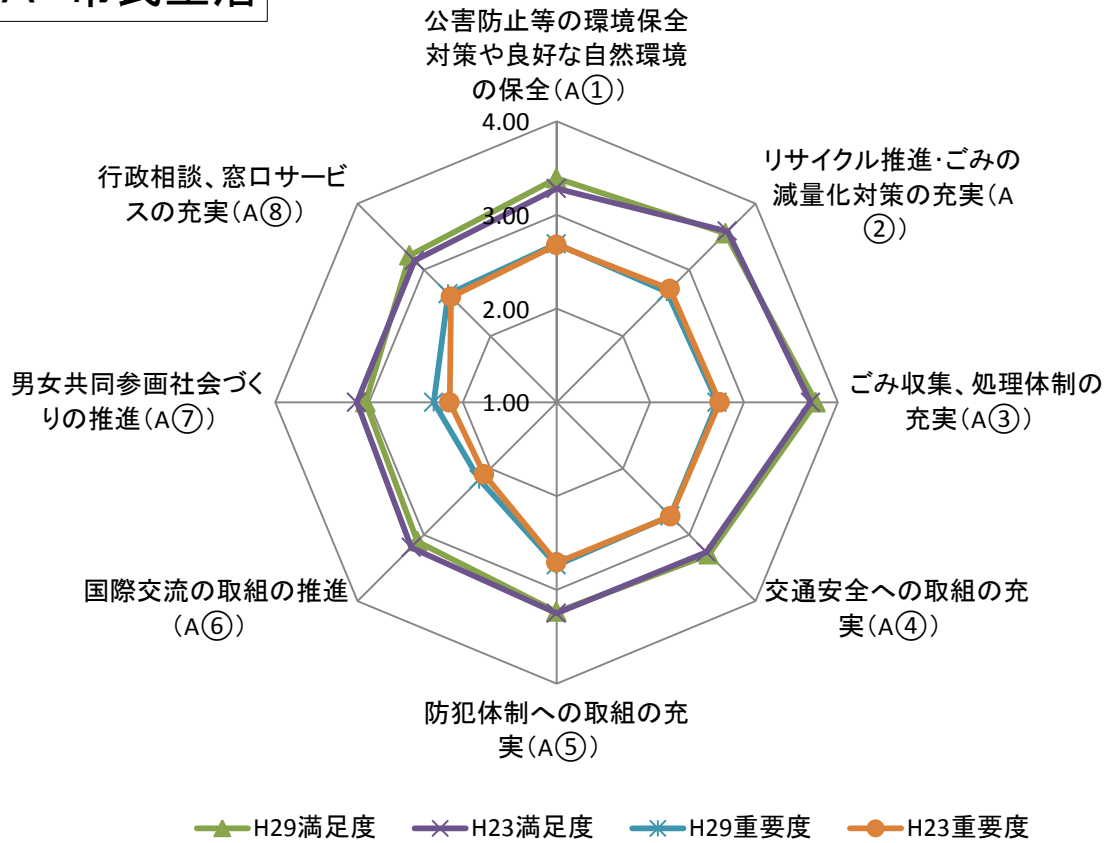
なお、各施策に対する評価を相対的に比較するため、各施策に対する回答結果を点数化し、その平均値を評価値として図で示したものが、次のグラフである。

(3) 前回調査（H23年度実施）との比較

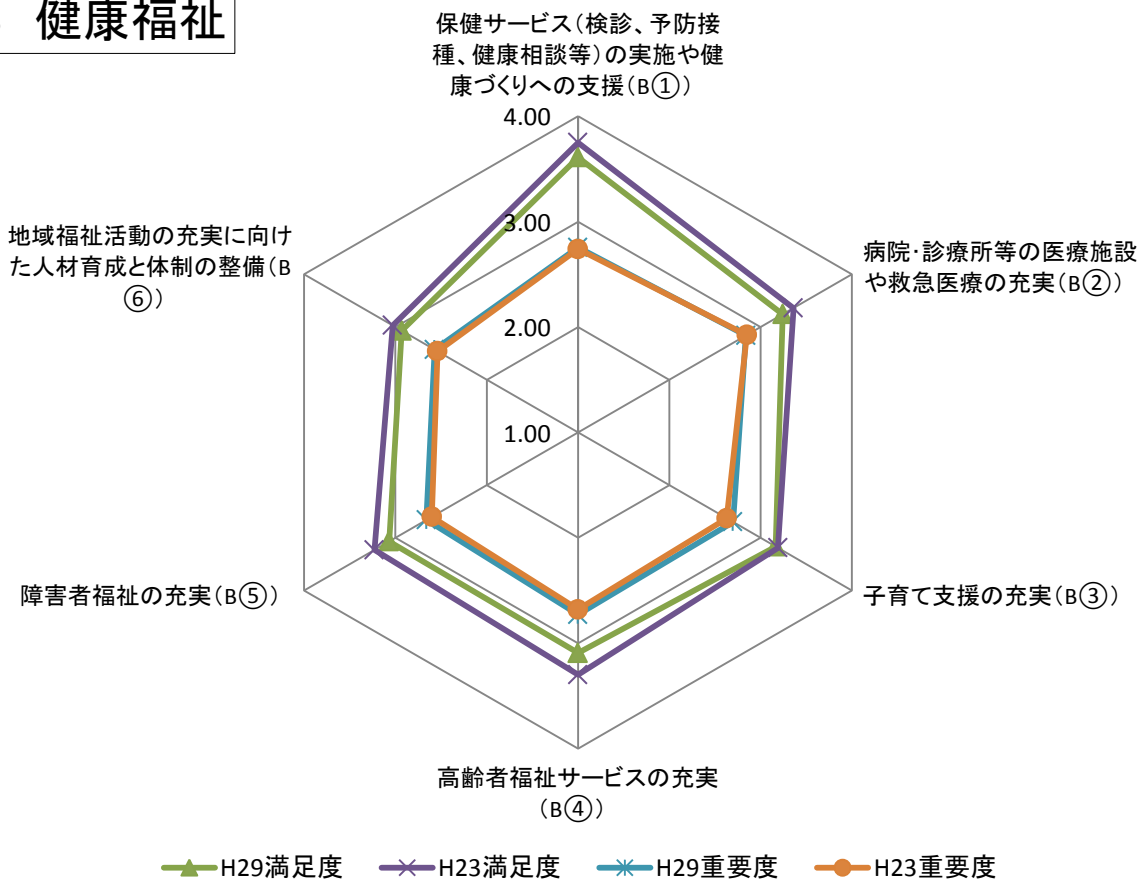
市の取組		満足度の比較			重要度の比較		
		H29	H23	増減	H29	H23	増減
A 市民生活	公害防止等の環境保全対策や良好な自然環境の保全（A①）	3.39	3.28	0.11	2.69	2.68	0.01
	リサイクル推進・ごみの減量化対策の充実（A②）	3.55	3.58	-0.03	2.67	2.71	-0.04
	ごみ収集、処理体制の充実（A③）	3.77	3.71	0.06	2.71	2.74	-0.03
	交通安全への取組の充実（A④）	3.30	3.26	0.04	2.71	2.72	-0.01
	防犯体制への取組の充実（A⑤）	3.24	3.25	-0.01	2.74	2.71	0.03
	国際交流の取組の推進（A⑥）	3.10	3.19	-0.09	2.16	2.09	0.07
	男女共同参画社会づくりの推進（A⑦）	3.04	3.13	-0.09	2.31	2.14	0.17
	行政相談、窓口サービスの充実（A⑧）	3.22	3.14	0.08	2.63	2.59	0.04
B 健康福祉	保健サービス（検診、予防接種、健康相談等）の実施や健康づくりへの支援（B①）	3.61	3.75	-0.14	2.76	2.74	0.02
	病院・診療所等の医療施設や救急医療の充実（B②）	3.24	3.36	-0.12	2.84	2.85	-0.01
	子育て支援の充実（B③）	3.17	3.19	-0.02	2.70	2.63	0.07
	高齢者福祉サービスの充実（B④）	3.09	3.30	-0.21	2.73	2.68	0.05
	障害者福祉の充実（B⑤）	3.07	3.23	-0.16	2.66	2.60	0.06
	地域福祉活動の充実に向けた人材育成と体制の整備（B⑥）	2.93	3.03	-0.10	2.57	2.54	0.03
C 産業振興	農林水産業の振興（生産基盤の整備、後継者の育成など）（C①）	2.97	2.88	0.09	2.58	2.54	0.04
	農林水産物や観光資源などの地域資源・特性を生かした産業等の振興（C②）	3.00	2.91	0.09	2.55	2.51	0.04
	地場産品のブランド化の推進（C③）	3.08	2.96	0.12	2.55	2.47	0.08
	中小企業・地場産業の育成、支援（C④）	2.85	2.74	0.11	2.58	2.58	0.00
	起業の支援や新産業の創出（C⑤）	2.82	2.68	0.14	2.46	2.49	-0.03
	企業誘致の推進（C⑥）	2.71	2.58	0.13	2.52	2.54	-0.02
	雇用機会の創出などに関する取組の推進（C⑦）	2.71	2.57	0.14	2.60	2.64	-0.04

市の取組		満足度の比較			重要度の比較		
		H29	H23	増減	H29	H23	増減
D 都市基盤	国道・県道などの幹線道路の整備 (D①)	3.12	3.16	-0.04	2.66	2.56	0.10
	生活道路の整備 (D②)	2.97	3.05	-0.08	2.70	2.60	0.10
	公共交通機関の利便性の向上の促進 (D③)	2.61	2.69	-0.08	2.63	2.53	0.10
	公営住宅の整備 (D④)	3.08	3.13	-0.05	2.25	2.22	0.03
	上水道・簡易水道の整備 (D⑤)	3.33	3.39	-0.06	2.54	2.48	0.06
	下水道などの生活排水処理施設の整備 (D⑥)	3.14	3.15	-0.01	2.55	2.51	0.04
	公園や広場などの整備 (D⑦)	3.17	3.31	-0.14	2.44	2.32	0.12
	治山、治水、砂防などの災害対策の強化 (D⑧)	3.02	3.07	-0.05	2.62	2.55	0.07
	高度情報通信ネットワークの充実 (D⑨)	2.97	3.00	-0.03	2.38	2.23	0.15
E 教育文化	幼児教育の充実 (E①)	3.05	3.14	-0.09	2.62	2.55	0.07
	学校教育施設・教育内容の充実 (E②)	3.05	3.12	-0.07	2.68	2.61	0.07
	健全で心豊かな児童育成など社会教育の充実 (E③)	3.04	3.12	-0.08	2.64	2.59	0.05
	生涯学習環境の充実や施設の整備 (E④)	3.07	3.22	-0.15	2.48	2.39	0.09
	スポーツの振興や施設の整備 (E⑤)	3.05	3.20	-0.15	2.48	2.33	0.15
	地域の歴史資源の保護や活用 (E⑥)	3.07	3.11	-0.04	2.40	2.26	0.14
	文化施設、芸術・文化活動の充実 (E⑦)	3.01	3.03	-0.02	2.38	2.31	0.07
F 市民参画・行政運営	市政に関する情報提供や情報公開 (F①)	3.15	3.10	0.05	2.51	2.52	-0.01
	公民館や集会所などのコミュニティ施設の整備 (F②)	3.16	3.25	-0.09	2.37	2.31	0.06
	地域コミュニティ活動の充実・強化 (F③)	3.10	3.15	-0.05	2.36	2.31	0.05
	共生・協働のまちづくりの推進 (F④)	3.06	3.08	-0.02	2.34	2.30	0.04
	NPOやボランティア活動支援の推進 (F⑤)	3.04	3.11	-0.07	2.27	2.27	0.00
	民間企業やNPO団体等への業務委託の推進 (F⑥)	3.02	3.02	-0.00	2.20	2.22	-0.02
	行財政改革の推進 (F⑦)	2.93	2.87	0.06	2.40	2.45	-0.05
	広域行政、広域連携の推進 (F⑧)	2.99	3.00	-0.01	2.34	2.33	0.01

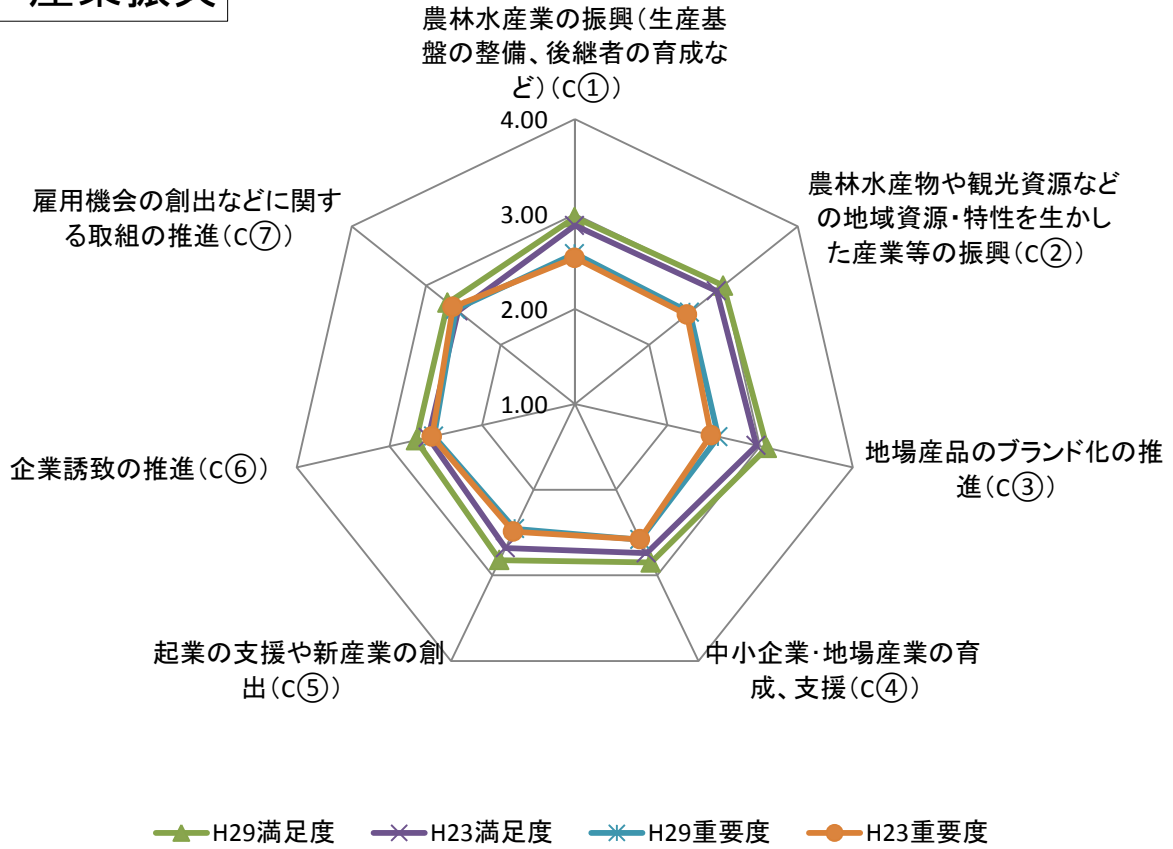
A 市民生活



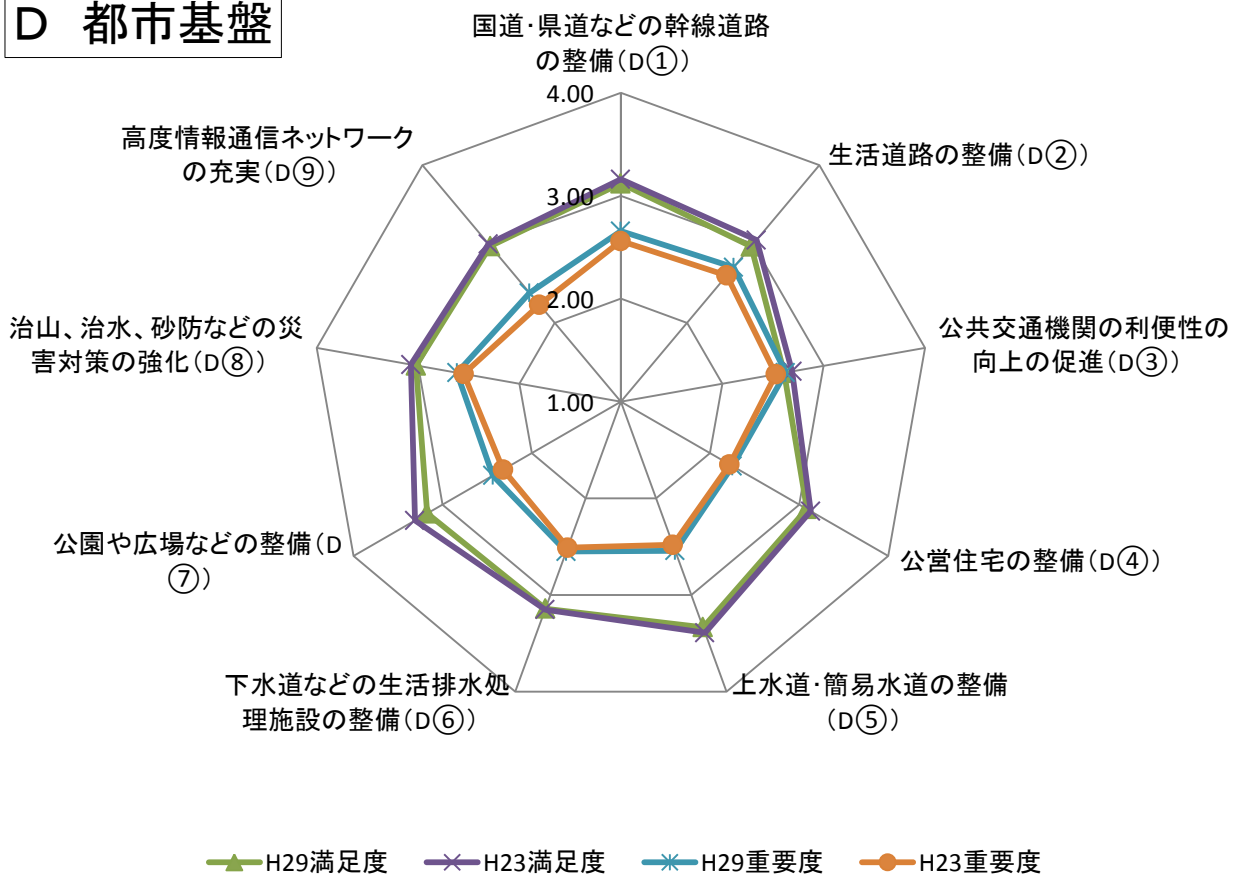
B 健康福祉



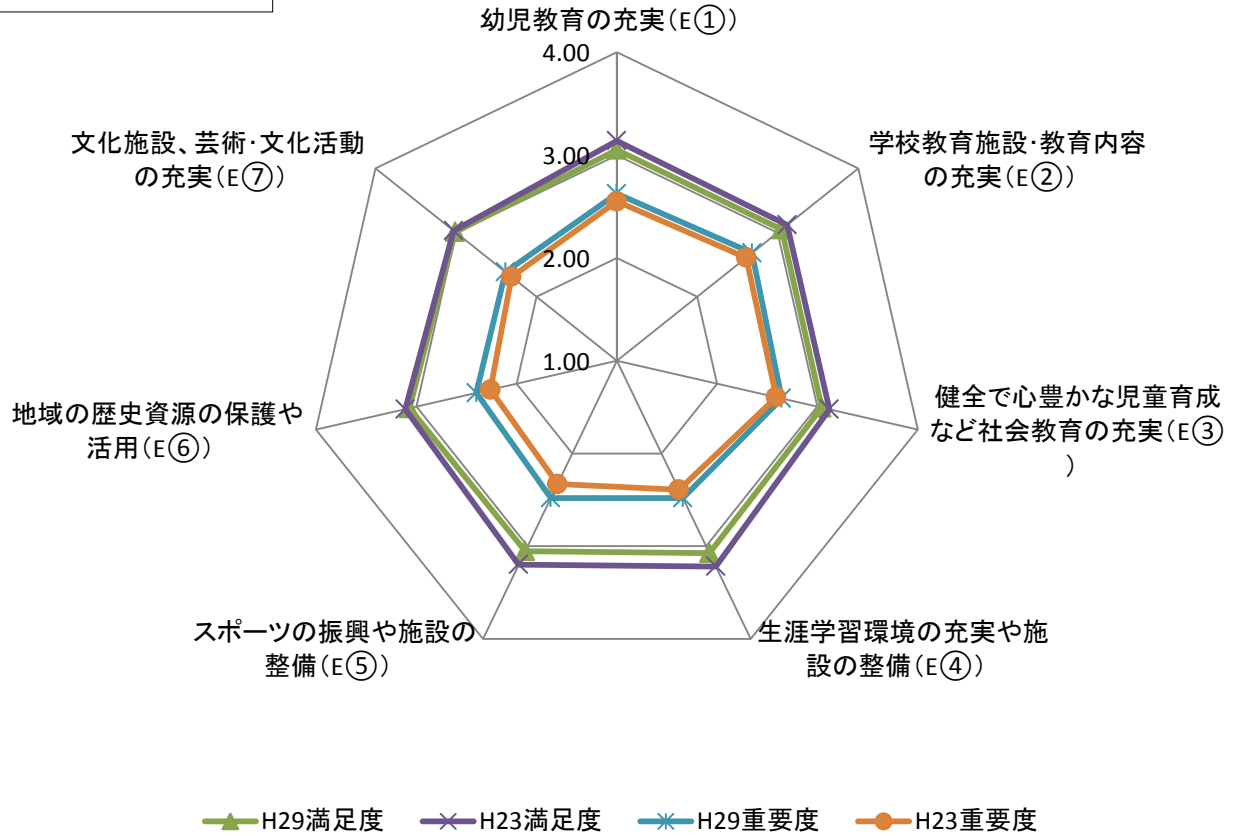
C 産業振興



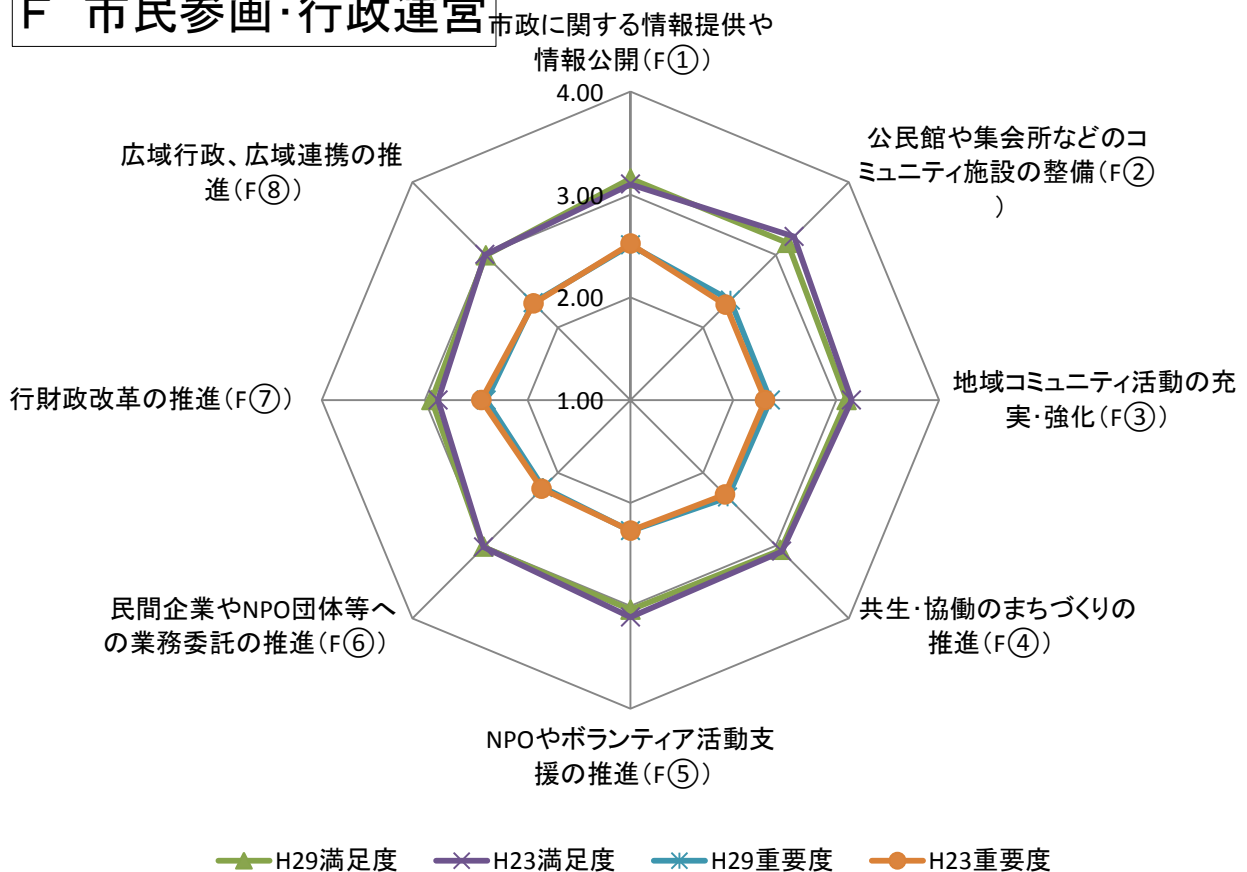
D 都市基盤



E 教育文化

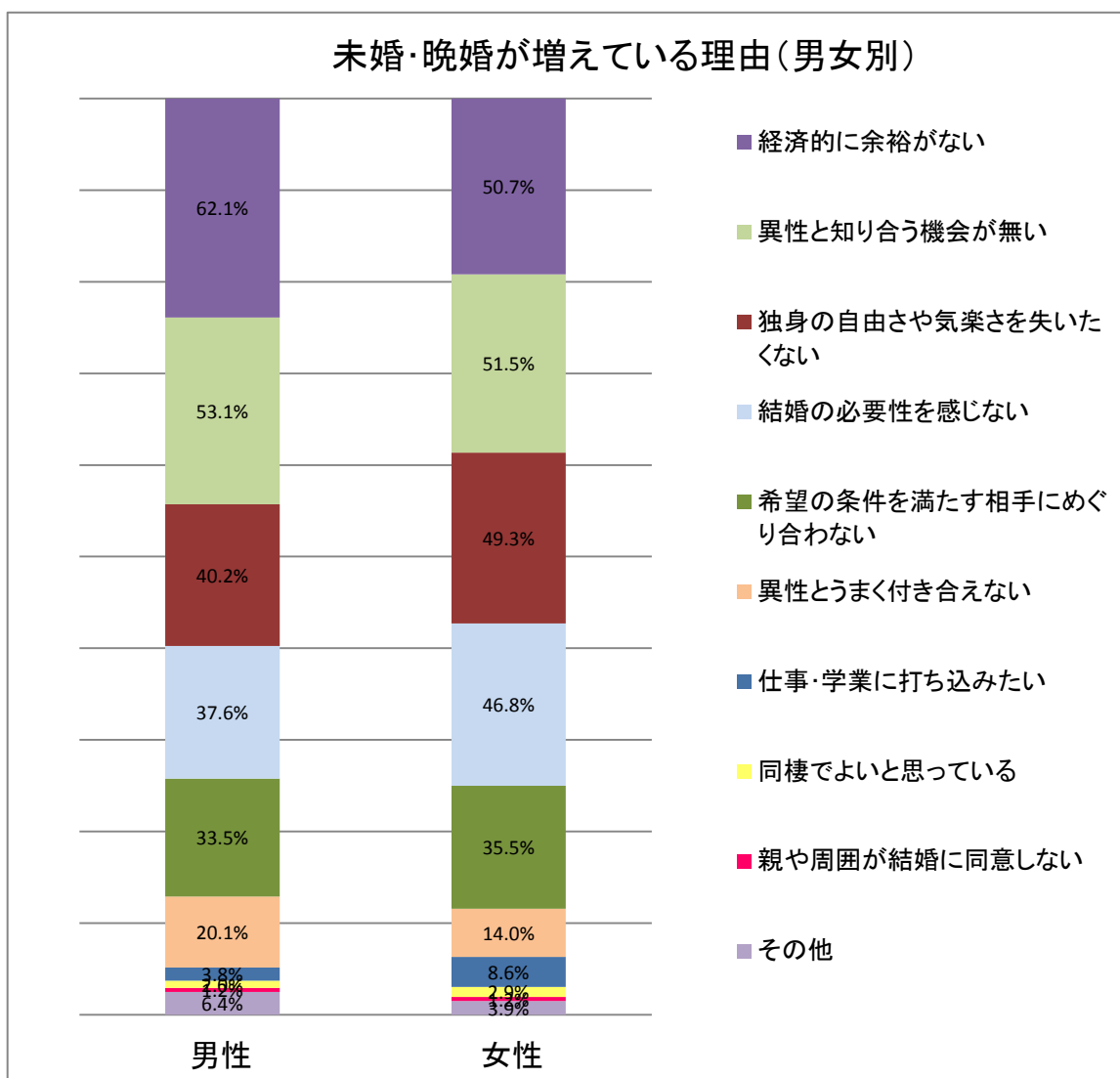
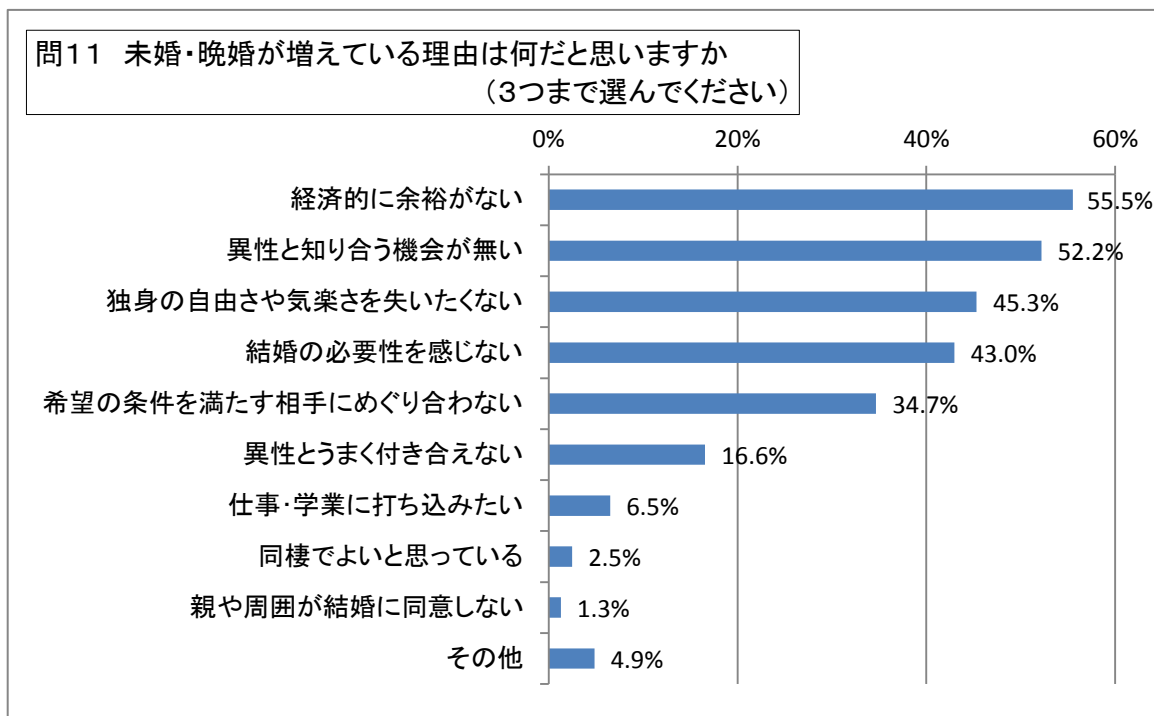


F 市民参画・行政運営

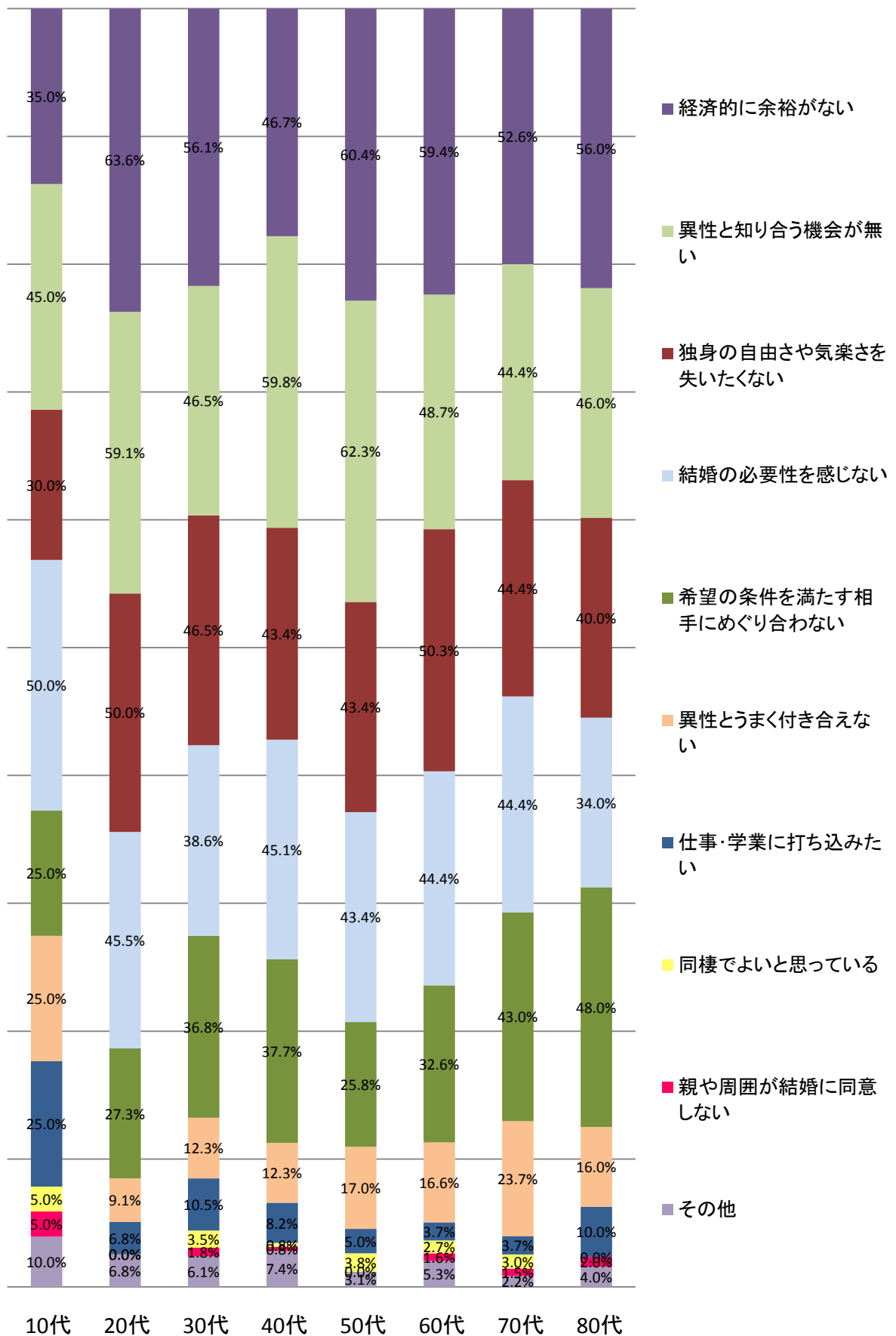


5 結婚、少子化対策について

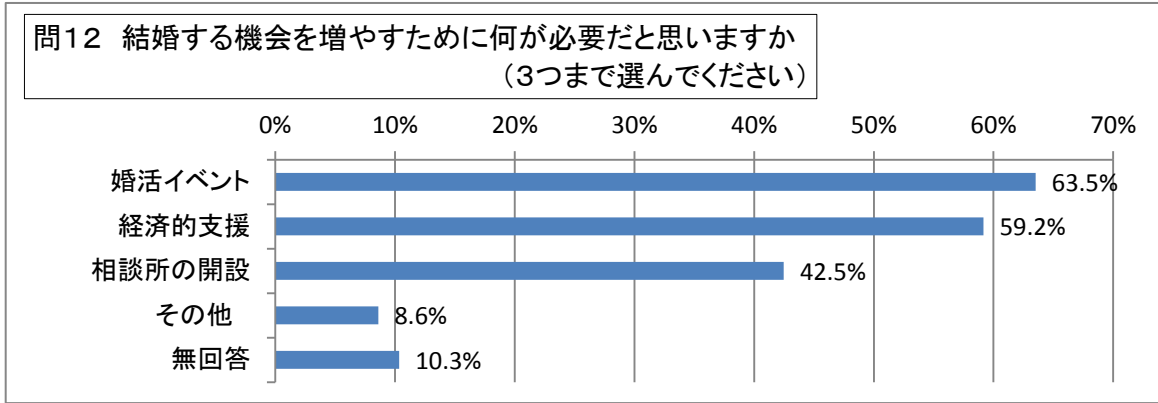
ア 未婚・晩婚が増えている理由



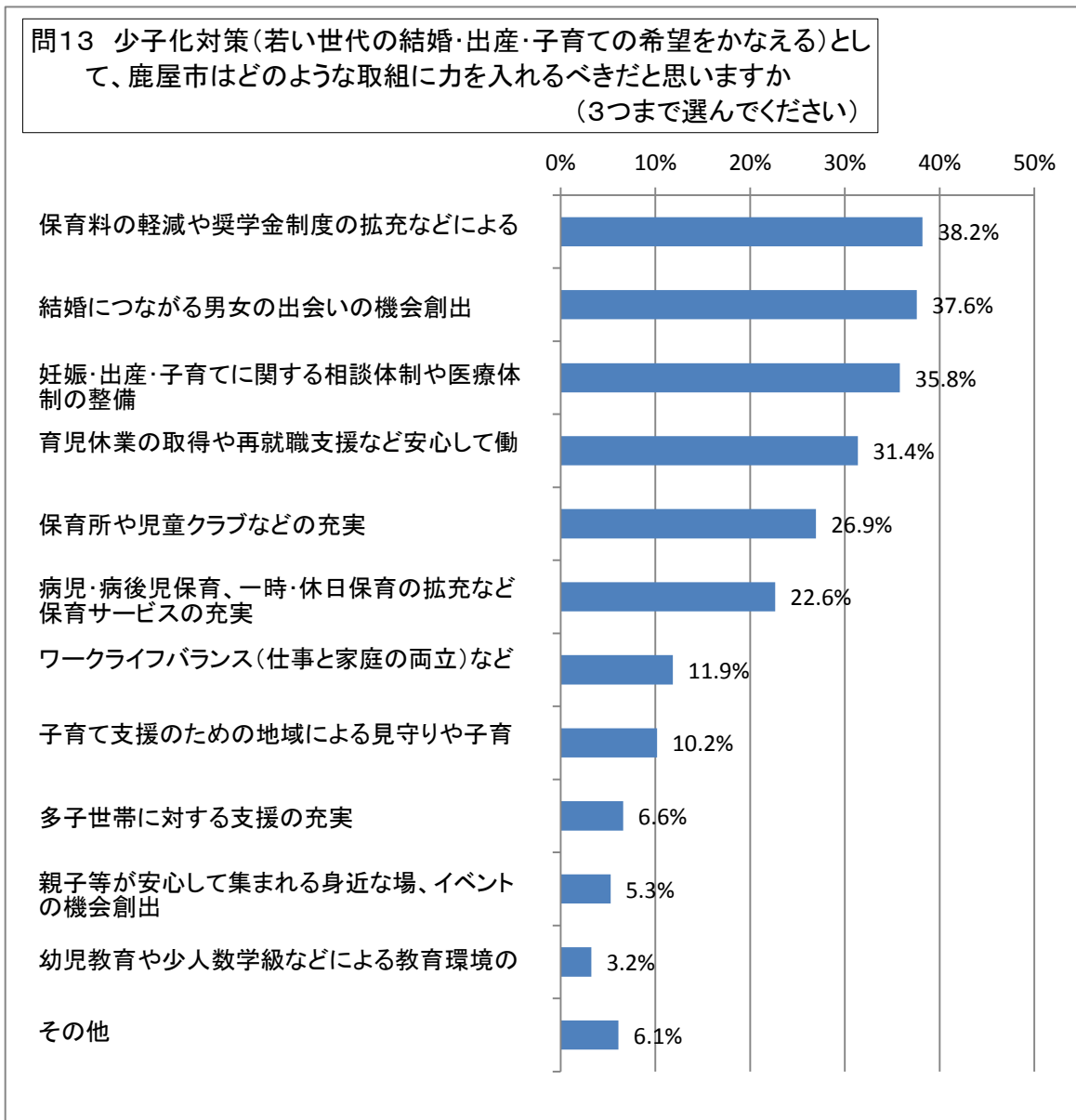
未婚・晩婚が増えている理由(年代別)



イ 結婚する機会を増やすために必要なこと

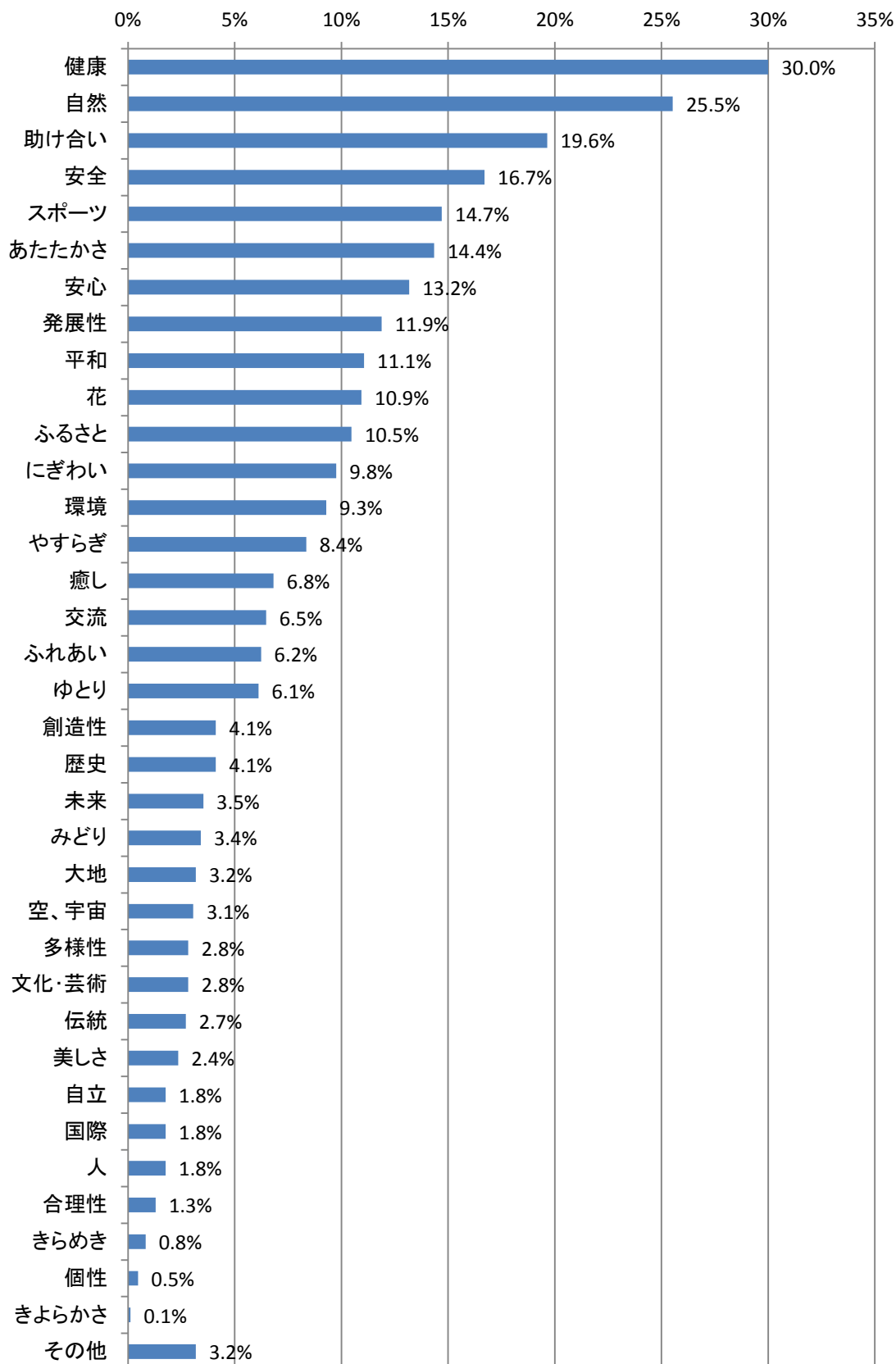


ウ 少子化対策として鹿屋市が力を入れるべきこと



6 鹿屋市のイメージやまちづくりを行う上で大切にしたいキーワード

問14 鹿屋市のイメージや、まちづくりを行う上で大切にしたいと思われることを一言であらわすとすれば何が考えられますか
(3つまで選んでください)



7 将来の鹿屋市について

